



秘 殊情報 第六十九號

昭・一七二二三六出
情報局第一課第二課

◎日本は艦船の不足に、程因つてゐない。米宣報記者

米々ス(本國向) ニューヨーク廿三日發 ニューヨーク・タイムズ軍事記者ハンソン・ポ
 ールドウインは同紙紙上で日本の艦船状況につき左の如く論じ、ある。
 日本が過去一ケ年の太平洋戦争で消耗戦の效力を若干感じてゐるが、幾分明白になつたが、
 最近ノックス海軍長官が日本は過去一ケ年に百萬噸から百五十萬噸の商船を喪つてゐると推
 定したのは恐らく餘りに樂觀的に過ぎる判断であらう。日本の造船能力は大体年に五十萬噸
 であつて確實な記録による最高造船記録を擧げた一九一九年も六十一萬一千八百八十三ダ
 ロス噸に過ぎない。従つて日本の實際の船舶喪失は恐らく造船能力より大きいだらうが日
 本は開戦當初香港、マニラ、シンガポール、その他相當量の船舶と造船設備を獲得したか
 ら、日本の造船能力は八十萬噸乃至百萬噸に増加してゐるかも知れない。又日本は各領土間
 を連絡する短距離航海用として多數の小型船舶、帆船、ジャンクなどを利用する。故に日
 本が現在船舶を感ぜ始めるのは事實としても甚だしい艦船不足に苦しんでゐるや否や
 は疑はしい。以上の事實に徴しても日本を封鎖しても効果はないと思ふ。日本は既に占領地

内に戦争遂行のために必要な物資を殆んど全部貯蓄してゐる。

日本は艦船の不足に、程因つてゐない。米宣報記者
 昭・一七二二三六出
情報局第一課第二課

内に戦争遂行のために必要な物資を殆んど全部所有し、リコーもミームを買つてゐる。相當量の貨物を積める樞軸の船が聯合國の封鎖を破つてゴムや錫をドイツやドイツ占領下の諸港へ輸送し、歸路はそれらの港から完成商品その他を運び歸つてゐる。日本海軍は既に大損害を蒙つてゐるが、まだ片輪になつてはゐない。主力艦隊はほぼ無存である。その上最近日本海軍は新戦艦(複数)の竣工を発表してゐる。日本の空母勢力は大損害を受けたがそれでも恐らく現在修理中の本式の空母が二三隻のり、更に多数の改装空母を所有してゐる。又新たに起工された本式の空母二隻もほぼ竣工した模様である。巡洋艦勢力はほぼ回復したが、まだ若干は残つてゐる。更に又阿蘇、潜水艦の増強も新規な建造によつてほぼ償はれるであらう。

⑨工業國支那の實現を豫想せよ

米通信(重慶向) ニューヨーク廿四日發

支那工業合作社米補助委員會議長、ヘンリー・カーペンター博士は重慶政府行政院副委員長孔祥熙の招請に應じ、四ヶ月に亘り支那、印度並びにエジプト各地に於ける三百五十の合作社視察旅行を終へたの如き所感を述べた。支那は戦後大々的な工業復興期に入りアジアに於ける特種的な工業國一家となるであらう。併して日本は政治的にも経済的にも日つ又工業的にも全く力化するであらう。

支那に於ける工業合作社の發達は今後の同盟に於ける工業復興に際して最善の基礎を與へることならう。即ち合作社は支那全土の工業的發展に寄與すると共に、それを一定の限定された地域に集中せしめないであらう。工業合作社は天然資源の供給に近接する支那各地における速やかな工業發展に必要且つ最善の諸方策を提供するものである。西歐諸國の戦後世界は開がいかなる形式で實現されるにせよ西歐諸國にとつて支那は唯一の取引相手國なのである。従つて我々は先を争つて支那に對して指圖がましいことをする様なことがあつてはならない。

⑩ビルマ進駐と米紙論評

米官用報ワシントン廿三日發

ウエーヴニル報のビルマ進駐に關するワシントン・ポスト紙の社説

若し我々がマキアブに對する英軍の進駐だけに注意を集中するならばビルマに於ける現在の闘争の完全な意義を忘却するものである。勿論英軍の作戦は重要なるものであり、マキアブを奪回すれば聯合軍はビルマに於ける日軍の集結地を破壊し軍需品貯蔵所を破壊し得る飛行場並びに港を獲得するものであるが、北部ビルマのシャン高原と支那の雲南省との間の國境に於て戰鬥が行はれてゐることを忘れてはならない。そこでは日本軍は攻勢に出たり、彼